

みょうほうれん げきょうほうべんほんだいに
妙法蓮華經方便品第二

【現代語訳】

しやかむにぶつ
釈迦牟尼仏の真理と正しい教えを白蓮華に譬えたお経。

第二章 教化の手段として諸経を現したことを示す章

に じ せ ぞん じゅうさんまい あんじょうにき ごうしやりほつ
爾時世尊。従三昧。安詳而起。告舍利弗。

【現代語訳】 その時に釈迦牟尼仏（釈尊）は、心が静かに統一されて安らかになっている状態から立ち上がって、弟子の中の長老である舍利弗に告げられた。

しやりほつ
舍利弗・・・釈迦牟尼仏の十大弟子の一人。智慧第一とされる。

しよぶつちえ じんじんむりよう ごちえもん なんげなんにゆう いつさいしやうもん ひやくしぶつ
諸仏智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切声聞。辟支仏。
しよぶのち しよいしやが ぶつぞうしんごん ひやくせんまんのく むうすうしよぶつ
所不能知。所以者何。仏曾親近。百千万億。無数諸仏。
じんぎやうしよぶつ むりようどうほう ゆうみやうしやうじん みやうしやうふうもん じやうじゆじんじん
尽行諸仏。無量道法。勇猛精進。名称普聞。成就甚深。
みぞうほう ずいぎしよせつ
未曾有法。随宜所説。
いつしゆなんげ
意趣難解。

【現代語訳】 多くの仏たちが具えている智慧は、極めて奥深いものであり、はかり知れないものである。その智慧は教えを受け難く理解し難いものである。そして、全ての声聞・辟支仏（縁覚）たちの知ることのできないものである。その訳はなぜか、それは、仏はかつて百千万億という数えきれないほどの多くの仏たちに親しく近づき、多くの仏たちの無量の教えの法を 尽く修行し、勇ましく意志強固に精進努力し、その名声が普く聞こえていた。そして、はなはだ奥深い、

いまだかつて無い法を体得した。その法は聞く者の能力に応じて様々な形で説かれたものなので、その意趣は理解し難いのである。

- ・ しょうもん 声聞ひやくしぶつ えんがく・・・釈尊の教えを聞いて覚りを得た者
- ・ 辟支仏えんがく（縁覚）・・・世の中の因縁を知り覚りを得た者

しやりほつ 舍利弗。ごうじゅうじょうぶつちらい 吾從成仏已來。しゅうじゅういんねん 種種因縁。しゅうじゅうひゆ 種種譬喩。こうえんごんきよう 広演言教。
むうしゅうほうべん 無数方便。いんどうしゅうじょう 引導衆生。りょうりしよくちやく 令離諸著。しよいしやが 所以者何。によらいほうべん 如来方便。
ちけんはらみつ 知見波羅蜜。かいいぐそく 皆已具足

【現代語訳】舍利弗よ、私は仏となってからこのかた、教化の手段（方便）として、種々のいわれ、種々の譬喩をもって、広く教えを説き、無数の教化の手段によって、衆生たちを教え導いて、多くの執着を離れさせてきた。それはなぜか、如来は教化の手段と、物事の本質を見極め、覚る能力をすでに具えているからである。

しやりほつ 舍利弗。によらいちけん 如来知見。こうだいじんのおん 廣大深遠。むりよう 無量。むげ 無礙。りき 力。むしよい 無所畏。ぜんじょう 禪定。
げだつ 解脱。さんまい 三昧。じんにゆうむさい 深入無際。じょうじゆいつさい 成就一切。みぞうほう 未曾有法。

【現代語訳】舍利弗よ、仏が真理を見極め覚るための智慧は、広大で奥深いものである。そして、慈悲深くさまざまな智慧を具え、静かに迷いを離れ、深く無限の境地に入り、一切のいまだかつてない法を体得したのである。

しやりほつ によらいのうしゆじゆふんべつ ぎようせつしようほう こんじにゆうなん えつかしゆうしん
舍利弗。如来能種種分別。巧説諸法。言辞柔軟。悦可衆心。
しやりほつ しゆようごんし むりようむへん みぞうほう ぶつしつじようじゆ
舍利弗。取要言之。無量無辺。未曾有法。仏悉成就。

【現代語訳】 舍利弗よ、如来（仏）は、種々によくわきまえ、教化の手段として巧みに多くの法を説く、その言葉は柔軟で、多くのものたちの心を悦よろこばせる。舍利弗よ、要点をかいつまんで言えば、限りなく無量のいまだかつてない法を、仏はことごと悉く体得されたということなのである。

し しやりほつ ふしゆぶせつ しよいしやが ぶつしよじようじゆ だいいちけう
止。舍利弗。不須復説。所以者何。仏所成就。第一希有。
なんげしほ ゆいぶつようぶつ ないのうくうじん しよほうじつそう
難解之法。唯仏与仏。乃能究尽。諸法実相。

【現代語訳】 止めておこう。舍利弗よ、もうこれ以上、方便（教化の手段としての法）を説くことはできないのだ。それはなぜかと言えば、仏が体得されたものは、一番に希まれなもので理解し難い法である。しかも、唯、仏と仏とのみが、理解でき、全ての存在の真実のありのままのすがたを、よく極め尽くすことができるのである。この法を諸法実相という。

しよいしよほう によぜそう によぜしよう によぜたい によぜりき によぜさ によぜいん
所謂諸法。如是相。如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。
によぜえん によぜか によぜほう によぜほんまつくきようとう
如是縁。如是果。如是報。如是本末究竟等。

【現代語訳】 一切万物の真実ありのままの相を明かすと、そのすがたとは次のようなものである。即ち、全ての存在の、すがた・形（如是相）。本来もっている性質（如是性）。相と性のよりどころとなる本質（如是体）。潜在的な能力（如是力）。作用・はたらき（如是作）。直

接的原因（如是因）。間接的条件（如是縁）。原因によって生じた結果（如是果）。結果が具体的に現れ得ること（如是報）。相（本）から報（末）までが究極的に一貫し平等であること（如是本末究竟等）。以上が諸法実相の説明である。